

# つどい

第50号

〒542-0071  
大阪府中央区高津二丁目一〇番五ビル五〇二号室  
TEL(06)6224-0753  
FAX(06)6224-0755  
一般社団法人 関西常磐津協会



一般社団法人 関西常磐津協会  
理事長 常磐津都 祐蔵

初夏の頃、会員各位様におかれましてはご健勝にお過ごしのことと存じます。平素は協会運営にご協力頂き有難うございます。

五月一日に、天皇・皇后両陛下が即位され新しい年号令和の時代が始まりました。太平洋戦争がはじまる少し前の昭和十六年二月に当協会が発足しました。その関西常磐津協会も昭和・平成・令和と三代に亘る事となります。

去る六月三日、令和元年初めての総会と役員改選が行われ四名の再選と新しい理事二名の六名が選出されました。事務局長・渉外に綱男氏、会計と常磐津塚関連業務に小三郎氏、機関誌つどいに都代太夫氏、企画部に私と、次代に継ぐ意味を込め女流より新任の麒六氏と共に新任の都史氏に担っていただく事になりました。又、その他担当理事から推薦された方々

を部員とし共に二年間、協会の為に力を尽くす事となります。

会員皆様へは引き続き、ご理解ご協力を賜ります様重ねてお願い申し上げます。次第でございます。

さて本年の公演会が十三年ぶりに京都で、十月十三日(日)池坊学園こころホールにて開催致します。昨年に引き続き「ときわぎ」を同時開催し、又新しい試みとして小学生以下の愛好者によります「ときわびキッズ」の舞台も設けました。演奏会参加の方々も増え年齢層にもグッと幅が出来まして益々賑やかになる事かと存じます。

令和元年、初の公演会が待ち遠しく楽しみに思います。皆様と共に盛況な催しになります事を祈って居ります。



## 第79回 常磐津節公演会

日時 令和元年十月十三日(日)  
時間 未定

場所 京都四条烏丸  
池坊学園  
こころホール

第一部(順不同)

〈ときわびキッズ〉

一. 柱立て萬歳 綱男社中

一. お夏狂乱 亜香音社中

一. 三ツ面子守 都史社中  
(他二番予定)

一. 権八 都祐蔵社中

一. 千代の友鶴 都祐蔵社中

一. 双面 都史社中

一. 独楽 三都貴社中  
(他二番予定)

第二部

〈第七十九回 公演会〉

一. 常磐の松

浄瑠璃 巴瑠幸太夫  
三味線 綱男  
他

一. 松の寿

浄瑠璃 三都由紀  
三味線 三都貴  
他

初恋路千種濡事

一. 土手場  
浄瑠璃 小由太夫  
三味線 小欣矢  
他

一. お光物狂  
浄瑠璃 都代太夫  
三味線 小有喜  
他

一. 久作意見  
浄瑠璃 一佐太夫  
三味線 都祐蔵  
他

一. 乗合船恵方萬歳  
浄瑠璃 美佐季  
三味線 都史  
他

## 特集 羽ばたく女性 女流振興会

「女流の活躍無くしてその流派の隆盛もない」その様な言葉を以前よく伺いました。当協会も数年、女流さんの正会員が増え喜ばしく思っています。そこで今回は私達の仕事に携わって居られる女性を取り上げたいと思います。

平成二十八年一月「関西伝統芸能女流振興会」が発足し活動されています。代表は当協会員常磐津美佐希さん事嶋美希さん。当初は「私事になるので協会機関誌の特集には」とのお返事でしたが、古典芸能の舞台での「女性の頑張る姿」をご紹介したくご協力頂きました。

私は幼い頃から『松尾塾子供歌舞伎の舞台に立ち、卒業後は塾長助手として公演に携わって参りました。毎夏行われる舞台に於いて、諸先生先輩方、裏方の皆様方と道具の事や舞台転換や様々なキツカケ等お話しさせて頂く事が多く有りました。そんな中で一度女性ばかりでと流行りの女子会を開催しました。二十人程集まって頂きました。が、顔見知りではあるもののどの持ち場でお仕事されているのか知らなかった、というのが現状でした。

そうした中回を重ねる内、お互い聴きたかった事や仕事の悩み事等もお話しする様になりました。皆さん一緒に、伝統芸能の舞台公演等の減少には危機感を持つていました。

そこで、表舞台に立つ者と裏方双方より意見を出し合い一つの舞台を作れば機会も増えると言う事になりました。私達立方・地方や大道具方・音響・照明・衣装・顔師・床山迄揃っていました。

しかしいざ女性ばかりのグループを立ち上げるに当って、特に裏方さんからは「先ず裏方が表に出るべきではない。矜持として立つ事は出来ない」又裏方さんに限らず、需要の少ない世界でやりたい人が増えても仕事も保障も無いし、最も男性社会で女性のグループとは角が立つのではとの意見も有りました。でも先ずは門戸を広げなければ先細って行くばかりだと思いい志から活動して行く事になりました。

とり敢えずやってみないと分からない！と立ち上げに思い切られたのが法人格の取得でした。平成二十八年一月三十日、「二社」関西伝統芸能女流振興会」が発足しました。同時に会を周知して頂く為にと機関誌第一号を発行、女性の守護柄でもありどこ迄も

伝統芸能の裾野が、人々のご縁が繋がります様にとの願いを込め、麻の葉柄より「麻の葉」と名付けられ、翌二十九年、真白なキャンパスに自分たちで描くの意味を込めて、主催公演「ましろ会」を、初心者から楽しんで頂ける会ならではの+αを企画され、同年十二月二日国立文楽劇場小ホールに於いて。(ついで四十七号掲載)義太夫節三味線方豊澤住輔氏、常磐津節常磐津美佐希氏、三都貴氏、長唄唄方杵屋勝欣太氏・勝欣久氏、三味線方勝欣次氏、囃子方藤舎千穂社中のご協力の元舞台に立つ立ち方・演奏者・裏方各々の場所にも積極的に女性を起用、昼夜二回の公演を催され盛況裡に幕を下ろされました。+αの企画では三流の聴き比べをテーマに構成、第一部では三味線・撥・駒等の大きさの違い、音色の違い等を実際に舞台上で比較、第二部では四季を題材に合方を聴き比べ、加えて香りの空間と題して(第二部のみ)シーナリーセントの井上香苗さんの演出で演目義太夫道行初音旅路は「華やかな桜」常磐津系図は「梅と女性の悲しみ」長唄俄獅子は「お座敷とお白粉」をイメージして調合し演奏中に会場に漂わせられました。

第二回ましろ会は平成三十年九月二十四日尼崎ピッコロシアター大ホールにて午後二時よりの一回公演、演目は舞踊をメインに常磐津「釣女」と「独楽」の二段。



釣女上演前に登場人物を実際に舞台上にて紹介しあらずじの解説、独楽の前にはこの会ならではの「大道具転換」をお客様の前でお見せし解説されました。この解説に携わられました振興会理事で居られる関西舞台株式会社の森本加奈子さんにもお話を伺いました。

最初は舞台に立つなんてと思いましたが（笑）今回の演目に合わせての景色の解説等させて頂きました。そして釣女の松羽目より独楽の町屋の吊り物の転換を皆様に見て頂きますと会場から「わー」と歓声と拍手が、普段は先ず立方さんにそしてスタッフや周りの方々に迷惑が懸らない様、舞踊会では一発勝負です。そんな中での仕事ですが、今回の様に直接お客様の声を感じますと「こうして一幕、一幕、お客様は驚き喜んで頂いているのか」と思い嬉しく励みにもなりました。又私事ですが振興会を通じて、裏方さんの話を聴ける機会は中々無いからと、わざわざ北海道は札幌教育文化会館主催の公演にも呼んで頂きました。同じ事をし続けるには、余っ程の実力やスタビリティがなければお客様には飽きられてしまいます。伝統を守りながら新しいことをも模索していかなければならないと思う今日の頃です。これからもより一層古典芸能に親しみを持って頂きたいと思えます。私も一舞台人として、振興会のスタッフとして頑張っ行って行きたいと思えます。

この会ではより若い方々に楽しんで頂きたいという事で、甲南大学歌舞伎文学研究部の皆さんが、さつき緑秀次（常磐津丑香音）氏の指導の元「釣女」を演じられました。又香りの空間第二弾として、京都嵯峨

美術大学の有志の皆さんで香りのお土産を作成、独楽と釣女から「上臈」「醜女」「独楽」を粘土細工に香りを付け製作、上臈と醜女は表裏一体に香りを考えられたそうですが特に上臈は苦勞なさったとか、上臈は可愛い金魚の形に爽やかな、醜女は出目金にクセになる香りを、独楽は読んで字の如く独楽の形に松をベースに浅草をイメージした粋な香りに仕上げられたそうです。この振興会を通してイベントや会合等の演奏や講演等も増え始めているようで、又現代演劇とのコラボも企画中の事です。女性ならではの感性で楽しませて頂けます様今後のご活躍を期待致します。

この度は取り上げて頂き有難うございました。常磐津は元より、伝統芸能の裾野が広がります様、微力ながら頑張りたいと思えます。

今後共「関西伝統芸能女流振興会」、頑張る女性達を応援頂けましたら有難く存じます。

【最後に、振興会の監事で居られる常磐津三都貴さんへも一言お願いしました】

女性ばかりでこの様な活動が出来る事を大変嬉しく遅く思っています。常磐津節をはじめ伝統芸能の世界が少しでも多くの

方々に広まって欲しいと思えますし、私も身も皆さんと頑張れば有難く思います。普段関わりの少ない方々と舞台を作ったり他の分野の方々とのコラボ等、交わって行く事に依って新しい発見もあるかと楽しみにしています。



## ◆協会だより◆

### 受賞

常磐津都岳蔵理事長が、平成30年度京都府文化功労賞を受賞されました。誠におめでとうございます。

### 活動記録（平成31年令和元年前期）

#### ◆常磐津節 第四回

#### 伝承事業成果発表会

平成31年1月31日（木）京都芸術センター  
大広間14時

#### 伝承事業成果発表会

##### 「芝八景」

浄瑠璃／常磐津都代太夫、常磐津若首太夫、常磐津一男太夫、常磐津三都史、上調子／常磐津三之祐

##### 常磐津節保存会

##### 「八犬伝（下）伏姫自害の段」

浄瑠璃／常磐津一佐太夫、常磐津都代太夫、常磐津若首太夫、常磐津一男太夫、三味線／常磐津都岳蔵、常磐津都史、上調子／常磐津三之祐

#### ◆常磐津研修会

平成31年3月25日（月）京都・常磐津都岳蔵稽古場にて「平成三十年度第三期研修発表会」が催されました。今回は全七段、弾語りで演奏されました。

#### ◆第一回つくし会

平成31年4月6日（土）高知県立美術館ホール10時30分  
常磐津三都貴氏が地元高知県に於いて、演奏会「第一回つくし会」を開催されました。御母堂の故 藤間香津寿師を偲んで、立方藤間東之輔師による舞踊「松島」に始まり、高知・関西のお弟子さん方のご出演、高知の三都由紀師ご社中、愛媛県は松山の小欣矢師ご社中のご出演もあり全14番、司会・解説は桂九雀師が務められ盛会となりました。

## ◆協会だより◆

これから（令和元年後期）

### ◆第79回常磐津節公演会

第20回ときわぎ

第1回ときわづキッズ

令和元年10月13日（日）池坊こころホール（京都市下京区 池坊短期大学地下1F）  
一面でもお知らせしましたが、今年も昨年に続き公演会・ときわぎを同日開催致します。

また新企画として、師匠・または保護者が当協会会員である小学生以下の子供を対象とした演奏会、ときわづキッズを同日開催致します。

### ◆第27回常磐津都昆蔵研究会

令和元年10月27日（日）

東京・紀尾井ホール18時30分

「忠臣二度目清書」

寺岡平右衛門切腹の段

浄瑠璃／常磐津和英太夫 他

三味線／常磐津都昆蔵 他



### 〈第二期常磐津カルチャー〉

平成三十一年三月二十八日（木）午後十一時より第二期カルチャー修了式が当協会事務所にて執り行われました。今回は四名の生徒さんが修了、指導の綱男氏、都昆蔵理事長、小有喜理事が参列。修了演奏は、三味線開放弦の練習く清掻・佃合方。弾語り辰橋より（それ普天の下／洛中へ）。さくら変奏曲。二組に別れて、a組（又むら立ちしく進み出て）、b組（空も霞みてく失せにけり）、以上を無事演奏。後理事長よりの総評に続き修了証書が授与されました。初めて参列された小有喜氏は「二年間五十回という短い期間でこれだけ演奏される努力は凄いですね。改めて見習わない」とのご感想でした。



又第二期生の大谷裕子さん、中島基至子さん、仲山小夜子さん、山崎みどりさん、第一期生の安田幸代さんが「無料でこんなにお世話になりましたささやかな感謝と、三期以降もカルチャーが続き、一人でも多くの生徒さんがお稽古なされます様に」とこの度賛助会員として入会頂きました。協会より改めまして御礼申し上げます。

### 〈常磐津塚法要〉

平成三十一年四月四日（木）大阪市淀川区寂光寺・江口の君堂にて執り行われました。本年は十三名の方にご参拝頂きました。

昨年十一月に亡くなられました欣勢太夫氏の銘板を妹様であられる中原さんが参拝され納められました。



前号にて告知して居りました塚の清掃企画は準備の関係上残念ながら実現しませんでした。銘板の補修は業者さんにて行って頂きました。

### 〈第七回定時社員総会〉

令和元年六月三日（月）午後一時三十分より大阪市中央会館第五会議室に於いて執り行われました。本年は役員改選が行われ一面にもありました通り新理事に都史氏麒六氏が任期満了の一佐太夫氏、小有喜氏に代って新しく就任、監事の巴松太夫氏に代り新しく小有喜氏が、他の議案審議と共に満場一致にて承諾され閉会しました。

各役割（主たる）担当理事は左の通りとなりました。

〈理事長〉 都昆蔵

〈事務局〉 綱男

〈会 計〉 小三郎・麒六

〈企画部〉 都昆蔵・麒六・都史

〈機関誌〉 都代太夫

行事内容や運営によって会員の方々へ役員等としてサポートして頂く事となります。その際はご協力の程お願い致します。